



[和気霽々と新入会員歓迎会](#) [ならやま池調査報告](#)
[歴史文化クラブ研修計画・・・『歴史の渚を歩く』](#)

2013年4月号 (NO. 135)			
リレー随筆	1	自然俳句	12
椎茸イベント	2	癒しの散歩道 & ならやま茶論	13
新入会員歓迎会	2	青垣春秋・隠れ古社寺 ひとり旅 ⑥	14
Monthly Repo. ならやま	3	Gallery ならやま	15
里山の今 (ならやま花だより、ペタキン日記、ミノムシ、ならやまパトロール隊)	4	蕎麦よもやま咄 ①	16
近畿地区緑推研修会報告	6	歴史文化クラブ研修計画	17
ならやま池調査報告	7	ならやま景観整備	18
自然教室チームだより	9	情報BOX & 通常総会開催予告	19
探鳥会 & 奈良学クイズ	10	行事案内(例会予告)	20
やさしい昆虫講座 ⑩	11	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記	21

随筆



大松明に酔う

山本 隆造

お水取りの行事を初めて観に行った。

待つこと2時間。照明が落とされた午後7時半、大松明が北の階段に登場する。天井にまで届こうかという炎に包まれた大松明を童子が担いでゆっくりと階段を登って行く。パチパチと音を立て火の粉というより火のついた杉の葉や板切れが足元近くまで飛んでくる。消えずにその場で燃えているものもある。火の始末は大丈夫・・・？ちょっと心配になる。

やがて二月堂舞台の北端に掲げられる。ここからが今日一番の見どころ、カメラを構えなおす。欄干から空高く突き出したり、ぐるぐる回転させ火の粉をまき散らしたりしながら舞台を北から南へと移動する。大松明が動くたびに見物客からワーッ！と驚きの声上がる。11本の大松明が間断なく上堂され、45分にわたる炎の軌跡に酔いしれる。感動と興奮の余韻に浸りながら、うまく撮れているかなとも思いつつ帰途につく。

練行衆による行は深夜に及び、様々な行も見学できるとのこと。次は行も見学したいと思う。

希望の炎

松本 武彦

すべての明かりが消え、星あかりのみとなった。それに合わせ人々のざわめきも止んだ。直接には見えなかったが松明に火が移されたのだろう、真っ暗だった登廊にわずかな明かりがさした。

やがて、松明は童子に担がれ、パチパチと弾けて力強い炎となり、登廊脇に立つ人の顔を下段から上段へと順に柿色に浮かび上がらせながら、二月堂へと進む。その後を練行衆が静かに続く・・・そして二月堂の舞台で勇壮な炎の乱舞となる。こうして見る者を楽しませてくれるこの松明は、達陀の行に向かう練行衆の足許を照らすためのものだという。

そういえば、いつかの新聞に、この大松明が東日本大震災の被災地に贈られたとあった。練行衆の足許を照らし続けて幾多の行を成就させ、或いは乱舞しては人の心をも揺さぶる大松明が、今度は被災地で復興への足許を照らし続ける希望の炎となることを切に願う。

壮観!!

平常男

奈良に住み43年、お水取りも過去2回の拝観。今回、はからずも鈴木様・心念講の皆様のお世話で身近に体感できた。

この度は、二月堂下の斜面でなく、籠松明に火を点火・童子が、堂内へ向かう連行衆の足元を照らし、・・・両側の欄干からタイミングを合わせて空高く突き出し、回転させて火の粉を散らす。それらを順次拝見できそうだ。幸いに、点火前の「かまど」から見る事ができた。まず感心したのは、かまどの外壁自体が松明の元の火種となることである。

午後7時にそのかまどに火種を突っ込む。15分後、かまどの壁にも火が回る。風向きで煙と火の粉が飛んでくる。暑い。コートの際に小さな穴を明けていた。火の粉がコートに着いた時、隣にいた人があわてて消してくれた。その親切に驚き、感謝感激した。

籠松明の点火を拝見しに移動。ヤナギやホオの枝を薄く削り、花びらのように作られた達陀松明。すべて参籠する男たちの手作り。心のこもった細かな美しい出来栄である。



7時半、数本束ねた木にかまどで火をつけ、達陀松明の花びらの中央に突っ込み、火の着くのを待つ。童子が担ぎ、連行衆の足元を照らしながら階段を登っていく。そのバランスのとり方は流石だ。

僧侶の入堂を見送り、西向きに8mの松明を回し、舞台に向かう。ここからが二月堂の下から見上げる風景。西北の欄干にかけられ、打ち振られる。次の松明の上堂を見届け、舞台を走り抜け、西南の欄干へ。担ぎ手の童子が屋根の先端に揃えるように突き出す。まるで屋根に炎が飛び移ったように舞い上がる。壮観!!おもわず歓声と拍手を送ってしまう。その美しさに見惚れ、カメラアングルを考えている自分に気が付く。あわてて拝観に来ていることを思い出す始末であった。

**やってみよう！！
しいたけづくり！**

3月16日(土)恒例の子供たちによるしいたけのホダ木づくりイベント『やってみよう！！しいたけづくり』を開催しました。

9名の元気な子供たちがならやまに集合、木村副会長からお話を聞いた後さっそく黄色のヘルメットをかぶってしいたけの菌打ち作業の現場に出発しました。

最初にしいたけの種菌を打ち込むための木槌(たたき棒)をつくります。おみやげに持って帰る細いコナラの原木(ホダ木)も半分程度の長さで自分の手で切りました。



ホダ木に電気ドリルで菌を打ち込む穴を開けます。スタッフが手を添えてくれるものみんな電気ドリルをさわるのは初めてです。無事に穴をあけ終わるとしいたけの種菌を木槌でトントンと埋め込みました。しいたけがいっぱいできるのが楽しみです。

美味しい豚汁でお弁当を食べた後、しいたけの観察と採取にでかけました。

ニョキニョキ生えているしいたけにびっくり、「5本だけ摘み取っていいよ」子供たちは喜んで、初めての体験をしました。(後でお土産用に分けました。)



最後は里山でしかできない遊びです。



木々の間に張った太いロープを渡るロープ渡り、木の枝にぶら下がったロープのブランコやハシゴを使っての木のぼりなど。

里山に子供たちの元気な声がひびく楽しい一日でした。

(高本 実男 記)

新入会員の歓迎会が盛大に

3月21日(木)ならやまで開催されました。嬉しいことに今年も23名の方が入会されました。

シニア大から10名、会員の紹介で9名、ならやまの活動を知って4名の方々です。

当日の参加者は新会員14名、既会員は



56名の参加で、新会員を盛り上げてくれました。

昨年入会のメンバーが中心となって企画を練り、運営しました。

前日午後からの雨もあがり、好天に恵まりましたが寒の戻りで少し寒さが残り、かつば酒も人気でした。

バーベキュー、焼きそば、おでん、鯖寿司や工夫を凝らした珍味のおつまみですっかり満腹になりました。

酒で暖かくなるにつれ新会員の方も饒舌になり、すっかりならやまと当会に馴染んで頂きました。

ならやま活動の各グループ、例会、自然教室の案内や歴史文化クラブ、蕎麦文化クラブから「のらの会」等々、自慢話も飛び出しました。



当会の多彩な活動の紹介で、新会員の皆さんも何をやろうか迷いながらも楽しそうでした。

これからの活動がますます楽しいものになるよう叡智を集めていきたいものです。

「明るく！楽しく！元気に！無理をせず！」をモットーに進みましょう。

新会員の「本当にこの会の雰囲気がとても良いですね。やっていけそうです。」の声が響きました。

(塩本 勝也 記)

Monthly Repo. ならやま

◆2月28日(木) 快晴 50名

皆伐地区でのコナラの玉切りの継続。立派な薪小屋が2棟ほぼ完成し、薪の入居待ち。

農園では土作りの継続作業で畑へのチップ投入。春には美味しい野菜がたくさん採れることだろう。また、肥料の保管小屋も完成。

第5地区ではチップパー機による笹の粉碎、伐採したスギ枝の整理と焼却処分。

佐保自然の森の花壇整備のため、苦土石灰やチップの運び込み。

3月7日(木) 晴れ 56名+3名

4月上旬並みの気候で暑いくらい、ウメの花も



満開となった。

皆伐地区の2棟の薪小屋はあつ

た。第5地区では笹、伐採したスギ枝の整理と焼却処分。暑い日の火の当番は大変だったことでしょう。

農園ではジャガイモの植え付けが始まった。3品種とかで、6月の収穫が待ち遠しい。ソバクラブによる畑準備も始まった。



ならやま池の水路掃除と新たな水入れが開始された。山野草花壇の整備が先週から始まり、タマスダレなどの球根も植えつけられた。

パトロール隊によると、クロモジの開花が始まったとのこと。

◆3月14日(木) 晴れ 51名

16日のしいたけ菌打ちイベントに向けて、子供たちが自然の中で楽しく遊べるように綱渡りなどの準備と観察路の安全点検。

第5地区の整備は継続実施。

ならやま池では水の調整、水草の植栽準備。隣接の湿地ではヌマトラノオの群落地を保護するため、侵入しようとする笹の除去。



農園では水田の水の導入と排水をスムーズに行えるように溝掘り、併せてクワイ畑の準備で終日泥の中の作業となった。お疲れ様。

3月16日(土) 晴れ 23名+17名

しいたけ菌打ちイベント。菌打ち作業のあと、山遊びを子ども達に楽しんでもらった。

スタッフは万全を期して待機していたにも関わらず、子供の参加が少なかったのが残念。

3月21日(木) 晴れ 70名

午前中は14人の新入会員を交



えて、しいたけの菌打ち、ウリ類畑の整地、第5地区の整備、佐保自然の森(フラワーロード)での球根の植え付け、



ならやま池での生物調査の再開、夕チバナの植え付けなど。また、昨年度加入した会員による新入会員の歓迎会の準備など忙

しくあつという間に時間が経過し、正午から歓迎会が開かれ、いろいろなご馳走を腹一杯食べて皆さんご機嫌。



ならやま花だより

吉村 さつき

3月14日 ならやまにも絨毯をひきつめたようにオオイヌノフグリが咲いています。

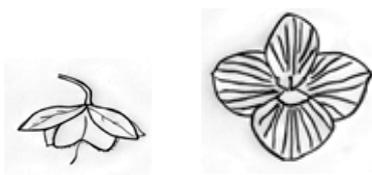
1887年(明治20年)、若き植物学者牧野富太郎先生がまだ見た事もないコバルト色の花が土手一面に咲いているのを見つけ満天の星を見る思いと言われたそうです。その頃は帰化植物も少なくヨーロッパ原産の花であることが分かり、やがてオオイヌノフグリと名付けられ発見の記事が植物学雑誌に載ったそうです。今では日本中で見られ、ありふれた雑草になりました。

茎は地をはい、葉の付け根に1個ずつ長い柄のある花をつけます。花弁は4枚、おしべ2本、めしべ1本。

葉は卵状楕円形。果実はハート形でやや平たい形をしています。

別名「瑠璃唐草、天人唐草、星の瞳」等と呼ばれ、こちらの方が花にはぴったりなのに思います。

「星の瞳」なんて美しい名前でしょう。子供の頃堅くなった果実を手でつまみプチプチいわせて遊びました。



果実

花

*花弁の大きさは其々少し異なっています

[草花] オオイヌノフグリ、タネツケバナ、ナズナ、オランダミミナグサ、ハコベ、セイヨウタンポポ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ



[木の花] クロモジ、ウメ(紅・白)、アセビ、ミツマタ、ヒサカキ、ヤブツバキ、ジンチョウゲ

[木の蕾] シダレザクラ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、アオキ、ユキヤナギ

[花壇] パンジー、スイセン

*** ペタキン日記 ⑪ ***
羽尻 嵩

日記一周年につき、タナゴ池の主な活動魚介類を紹介させていただきます。

＜昨年春に来たタガイ＞

現在15個体



＜夏大暴れしたアメリカザリガニ＞

在りし日の姿。大量発生し、やむおえず多数殺戮しました。成仏してください。



＜秋にやってきたシマヒレヨシノボリ＞

共食いなどで現在1匹か？



＜主役のニッポンバラタナゴ＞

10匹から約200匹の子供が誕生した。寒かった冬を乗り越えられたらどうか。



☆ ミノムシ ☆
(冬の風物)

菊川 年明

かつては冬枯れの樹木にミノムシがたくさんぶら下がっているのは冬の風物であった。最近ではミノムシは珍しい虫になっている。ミノムシの名前は、この虫が入っている袋状の巣が、昔の農家の人たちの稲藁で作った雨具の蓑に似ているところからの名付けで、蓑虫である。

ミノムシというのはミノガ科に属するガ(約20種)の幼虫の総称である。ミノガ類の大部分はオオミノガで、その幼虫のミノムシは果樹、庭木などの害虫であった。成虫のガのオスは茶色の普通のガであるが、メスは翅も脚もない奇妙な姿で、一生巣の袋から出ないという。

子供の頃はミノムシがたくさんいたので、いたずらをしたものである。ミノムシを巣の袋から取り出して、細かく切った毛糸屑の中へ放しておくとかやがて色とりどりの毛糸を巢材にして巣の袋を作る。

大人の人、ことに女性の中にはミノムシをたくさん集めてきて、その袋を切り開き、つなぎ合わせて財布などの細工物を作る人がいた。みごとなものを見たことがある。

ミノムシ(オオミノガの幼虫)激減の原因は1990年代に、中国からこのミノムシに寄生するオオミノガヤドリバエというハエが輸入農産物に紛れ込んで侵入したことで、これが拡散してたちまちのうちにオオミノガを絶滅に近い状態にしてしまった。この寄生バエは中国で果樹に有害なミノムシを駆除するために天敵としてを放っていたということである。



◆みのむし(蓑虫)

ならやま観察路コースで
見た冬の鳥

(パトロール隊報告記)

この冬、観察路コース周辺で25種の野鳥に出会いました。このうち、この場所で少し稀かなと思うのはノスリとビンズイでした。

ノスリはタカの仲間で、トビより少し小さく、姿はごく大まかに言えばトビに似ていますが、ひろげた翼を下から見上げると白っぽくみえます。黒髪山キャンプフィールド前の電柱に止まっていた。

ビンズイはスズメくらいで、色彩は枯れ草のような暗緑色です。尾羽は長くはありませんが、セキレイの仲間ですので上下に振り動かします。彩りの森の中ほどのところで見ました。近くの木の枝に止まったり、地面に降りたりしていました。冬鳥です。



ルリビタキ(写真)は山中(観察路)の数カ所で再々見かけました。ほぼスズメくらいの大きさで、オスの背中はルリ色、喉の下から腹部の中心は白、腹部の両脇はオレンジ色です。それぞれ一定の場所をテリトリーにしているようでした。観察路の整備作業をしているとごく近くまでやってきました。冬鳥です。

アオジはスズメより少し大きい暗緑色の鳥で、茂みを好みますが、道端へもよく出てきます。今年は里山林の南側でよく見かけました。冬鳥です。

オオタカも3度姿を見ました。いずれも上空で舞っていましたが、そのうちの1度は2羽が巴型になって舞っていました。また、それとは別にならやま自然の森の東の方でオオタカの甲高い鳴き声も1度聞かれました。

その他、お馴染みのジョウビタキ、シロハラ、ツグミ(以上は冬鳥)、ウグイス(地鳴き)、ホオジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラ、ヒヨドリ、カワラヒワ、モズ、セグロセキレイ、キセキレイ、キジバト、スズメ、ハシブトカラス、アオサギがいました。他にハヤブサかな?と思われるタカ類の不詳種1羽も見ました。(菊川記)

近畿地区緑推研修会報告

阿部 和生

「近畿地区森作り活動コーディネーター研修」

(財)緑化推進機構による“表題”の研修—2泊3日、三重県大紀町・大台町に参加してきました。24団体27名が参集し、主にワークショップによる討議主題摘出、グループ別討議、解決への道筋探し等の学習でした。

別途「大杉谷自然学校」の取り組みを聞き現地を視察するカリキュラムもありました。夕食後の討議・体験発表などもあり、内容の濃い研修会であったと思います。

研修の目的は、魅力的な活動の企画・運営ができているか？どうすれば参加しやすいか（組織、運営を含め）？他組織・団体・行政との連携、協働を行うには？等に集約されます。

問題点、解決方法、工夫等を班に分かれて模索するのですが、その過程の中で、自分の団体はどうなのだろう？どのような工夫が加えられているか？など、いつしか顧みず。

満足したり自省したりですが、帰途の電車ではいろんな事が頭の中を渦巻いていました。

「活動資金」についての問題提起は、活発でしたが、様々な悩みはあっても今回の参加団体は、困難を抱えていないようで、後のWSには課題に上らずでした。

①幹部スタッフの育成、②会員の参加を増やすには？③他との協働、④組織運営を円滑に行うには？の4点に再度絞られ討議しました。多くの意見が出され、議論し、解決方法を探りましたが、①～④、資金について、それぞれが独立したのではなく関連した部分があります。③他との協働部門に属し話しあってきました。個人的には、自主事業、受託事業、補助金等に対する区分を深く理解し、それらの取り組みに新しい視野を持つ事が出来たことが大収穫でした。

里山の百貨店と言える内容の私達の活動は、内部充実の段階から広報を含め外部への展開を試み、開示する時期になっているなど実感した次第です。

会の運営にあたっては、自主財源が必要、助成金からの脱却が必要であろうと結論しました。

「奈良・人と自然の会」は、無限の可能性を秘めたフィールドを持ち、有能な個性をお持ちの会員が多く、参加会員もまた多い等素晴らしい現状があります。「多細胞組織」と表現されていましたが、様々な部門があることも強みです。奈良県ではあの団体が素晴らしいよ！と常に推薦され賞賛される会への脱皮を図る時期が来ているのでしょうか。



現地視察した大台町では、小学校4年生で正規の学科として林業授業があり、その学科の履修・実習を受け持っているのが「大杉谷自然学校」でした。

大人の手助けがあるにしても、小4の生徒がのこぎりで40年超えのヒノキに、ロープを掛け伐倒しています。15mを超える伐採木の搬出作業までも行う逞しさ、それを指導する先生方には、脱帽です。自然学校の職員は、県下の学校に体験学習実施を啓蒙したり、地域の教育力を生かした森林環境教育の実施、地域活性化への努力等々もなさっています。いろいろと困難がある中で、しかしあくまで生き生きと明るく地域に密着され、宮川一級河川の流域との共存・発展を目指しておられる姿に感嘆しました。

一昨年から私達の会にも外部からのアタックが増えています。団体の原点を見失うことなく、要請を受け止め、それを更なる会の発展へと繋げてゆく時期に来ているのであろうと感じました。

ならやま池の池の環境と水生昆虫類の推移

平 常男

調査期間：2010年7月～2013年1月

調査担当：シニア自然大学校水生生物研究科

ならやま池の生立ち

皆さんがご存知のごとく、平成22年、旧の田圃の跡地を池として改修。水源は、浄化所から2カ所の開墾田に配水された一方が ならやまの里へ流され、その最終が、ならやま池へ流れてきています。

従って田植え期になる5月頃から10月の間は、水量が非常に少ない時期が続きます。さらに太陽が照る間、池全体に木蔭はなく、もともと田圃の後で池の底の土壌が肥えており粘土質のため、アオミドロの発生条件に適したと思えます。

池の中のアオミドロは、冬は池の底の窪みでじっとしており、暖かくなると太陽光を求めて池の水面に伸びてくる。そして枯れると池の底に泥として蓄積されていきます。

テーマの狙い

この地域は非常に水量が少なく、水の流れも非常に穏やかで池の底は泥が積み重なった粘土質。アオミドロが繁殖しやすい池の中でどのような水生生物が生息しているのか調べることにあった。水深は15～35cmの浅い池。

池の水質

pHからは、6.0～9.5で水道水に近いアルカリ性。

水の汚れを示すCODからは、6～8mg/Lで河川の下流水。亜硝酸態チッソ (NO2) で値が小さい。アンモニウム態チッソの値は、0.2・0.5 mg/Lで少し汚れている。リン酸態リンの値は、時に0.05 mg/L があるが0.1～0.2 mg/L で汚れた下流域水と推測できる。

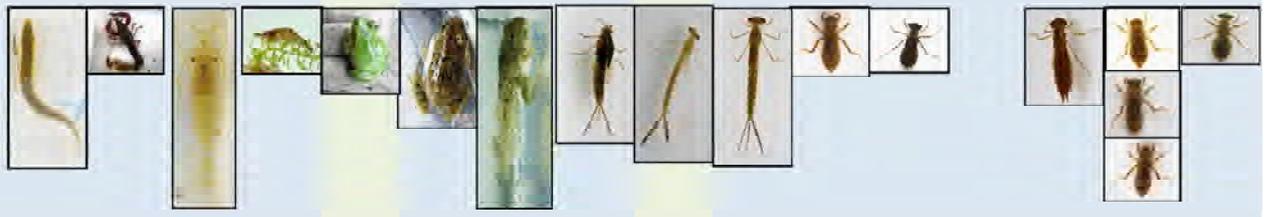
採集水生昆虫類最終結果

採集期間：2010年7月～2013年1月 採集者：シニア自然大学校水生生物科

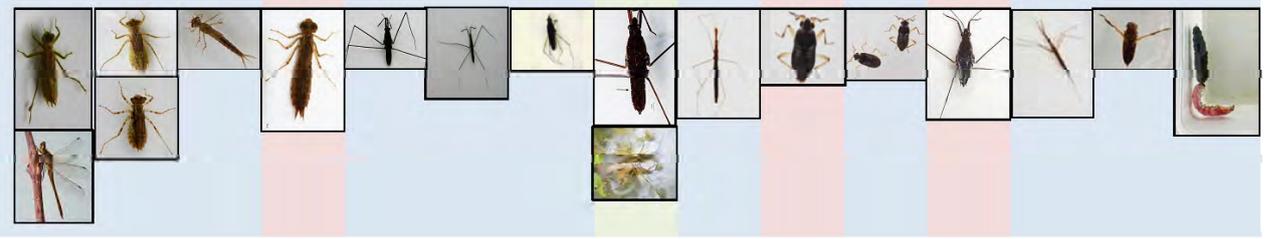
奈良・人と自然の会

調査データの記載は省きました。詳しいデータの必要な方は、ご連絡ください。

目 科	コイ目		エビ目		無尾目			カゲロウ目		トンボ目						
	ドジョウ科	アメリカザリガニ科	ナガエビ科	ヌマエビ科	アマガエル科	ヌマガエル	カエル幼虫	フタバカゲロウ風sp.	オツネトンボ	オオアイトトンボ	オオシオカラトンボ	フシメトンボ	イトトンボ科sp.	ギンヤンマ属sp.	シオカラトンボ属sp.	シウジョウトンボ
10年度	15	139	3	71	1			7	2				1	27	22	13
11年度	15	139	3	71		1		7		5				27	22	
12年度	30	278	6	142			38	14		5	1	4		54	44	13



目 科	カメムシ目													チョウ目 ツタガ科	
	トンボ科		アメンボ科												
種名	アカアカネ	アカネトンボ属sp.	アオモンイトトンボ属sp.	クロスジギンヤンマ	アメンボウ科sp.	ナミアメンボ	ヒメアメンボ	ヤスマツアメンボ	ヒメイトアメンボ	ホルバー トケシカタビロアメンボ	ケシカタビロアメンボ亜科	ハネナシアメンボ	ヒメズカマキリ	コマツモムシ	ミズメイガの幼虫
10年度	1		2				1	1	1		1				9
11年度	1			2	+	6	1		1	3		1	1	28	
12年度		1	2		1	10	2		2		1		1	+++	2



種名	カメムシ目		カメムシ目							カワゲラ目		コチュウ目						
	マツモムシ科	別名ワジムシ	マルミズムシ科	ミズムシ科						オナシカワゲラ属	ガムシ科	ガムシ科	ガムシ科	ガムシ科	ガムシ科	ガムシ科	ガムシ科	ガムシ科
10年度	38	2	8	1	2	2				30	3	1	++	3	1			
11年度	38	2	+	+	2	2	1	5	30	2		1	156	3	1	4		
12年度	76	4	8	+	4			+++	+++	3			54	6			5	4



種名	コチュウ目							ハエ目			原始貴毛目		ニナ目		モロコガイ目	ニホンバラタナゴ	
	ハイイロゲンゴロウ	マメゲンゴロウ	コツゲンゴロウ	コウベツゲンゴロウ	イネミズウシ	スジヒラタガムシ	オオミズスマシ	マルハナノミ科sp.	カ科sp.	ホソカ科sp.	ユスリカ科sp. 2種	ミズのかま	エラミズ	ナミウズムシ	カワニナ		ヒメタニシ
10年度	10	1		7	1		10		2					111		13	
11年度	10	2	13	7			2	1	2	8		1	1	111	1	+	
12年度	20		14	1	1	1	1	1		+++	*	24		222	1	13	4



冬のアオミドロ



夏のアオミドロ



アオミドロの除去の考え方・方法等は、す

でに前橋工科大学大学院・学生員 阿部 泰宜氏の論文「ビオトープ管理におけるアオミドロの発生抑制手法の検討」ですすでに述べられているように、池周辺の光量の適度な制限（背の高い植物）・池の水の流れを良くする方法・アオミドロを捕食する生き物を利用（食物連鎖）して抑制する手法等々を考えることで生態系・環境への影響を非常に小さくして改善する。

泥は、池の底が粘土質である以上、水が溜まっていれば、泥状になるのは当然と考えます。そしてアオミドロの死体も含まれているので、まずはアオミドロを少なくすることから始めてはと考えています。

今回の池干しは、前記の理由から底を乾かすようにすること。そのためには池の水を完全に干すことにあった。しかし、排水口の方が池の底より高いので、完全に排水できなかつた。そこで底の泥をできる限り集め水面より高くして干すことにした。（ポンプの使用は、いくら

注意しても泥を汲みあげてしまいポンプ内を傷めてしまいます）池干しの状態は、思っていた方向には進まなかつた。途中、私自身体調を崩し予定より2週間ほど遅れたが、多くの人の手助けで給水にたどりつきました。ありがとうございました。

その他の問題点は、

この池には、太陽光が直に降り注ぎ、影がないためその影響で水温を上昇させる。この点から池を深くすることで多少条件は変わることになるが、底が泥で調査活動を難しくします。

方法は、例えば籠を浮かせ近くに生息している植物をその中で育て、池に影を造ることで水温の上昇を少なくし水生昆虫類の憩いの場所にできないかと考えました。

今回は、空芯菜を育てることと、鉢植えの植物を置くことを考えています。アオミドロの繁殖を制御できないかと考えています。池が大きいので、水の流れが急に遅くなります。また、池の中で水の流れのない場所もあるのでは？

方法としては、池の中に島を造り・水生植物で水路を造ればとも考えますが難しいでしょう。

自然教室チームだよ!

2月、雪のため中止になった、鴻池運動公園の「万葉の苑」の観察会を再度計画いたしました。冬の寒さを耐えてきた木々たちが、春の陽気に一気に目覚めていることでしょう。元気を取り戻した植物との出会いを楽しみたいと思います。

万葉集に詠われた樹木を観察しながらゆっくり歩いて見ませんか。ネイチャーゲームを楽しんでみませんか。サクラの木がたくさんあります。お花見も楽しめます。

自然に関心のある方なら、どなたでも楽しんでいただけたと思います。自然教室チームのスタッフはもちろん、多くの方にご参加いただきたくご案内いたします。

- 日時：4月8日(月) 10時～12時30分
- 場所：奈良市鴻池運動公園内「万葉の苑」
- 集合場所と集合時刻：鴻池運動公園
第1駐車場付近 10時
- 雨天の時：前日午後7時前の天気予報で60%の雨予報の時は中止

奈良市鴻池運動公園内「万葉の苑」 自然観察会のご案内

- 持参するもの：メモ、筆記用具、お茶等、あればルーペ、図鑑(必要な方は弁当)
- アクセス：車の方
駐車場有り
バスの方は、下記のとおり
※近鉄奈良から高の原方面行き
9時23分又は53分乗車
JR奈良から高の原方面行き
9時20分又は50分乗車
※市営球場前下車 バスの来た方向に戻り、1つ目の信号を左折すぐ
- 準備の都合上 参加希望者は、4月5日までにご連絡ください。
連絡先 平岡久美



自然教室チームスタッフ募集

一緒に小学校の校庭の自然観察会を楽しみませんか!

- ① 自然が好き、子供が好きな方でしたらどなたでもできます。
- ② 庭の自然観察会の実施に当たっては下見を行い、取り上げるポイントについて話法集を作ります。必要あればリハーサルも行います。ですから初めは不安があるかもしれませんが、1～2回経験を積めば難しいことはありません。
- ③ 自然案内の仕方の研修をH25年度も予定しています。
- ④ 大事なことは私たちが子供たちと一緒に楽しくすることです。参加されるときっと満足されると思います。
- ⑤ もしやってみようかなと思われる方は下記までご連絡ください。もちろん毎月の自然観察会に来られて話を聞いていただくことも歓迎です。
倉田 晃



2月例会 檀原探鳥会

小田 久美子

2月29日(火)9名(過去最低)の少数精鋭でこじんまりした探鳥会となりました。前日の寒さと打って変わり、春のような日差しの下「神宮駅中央口→神宮内及び深田池→畝傍西麓→高取川沿い→宣化天皇稜濠→益田池堤跡→神宮駅西口」とゆったりコースで、主にカモなどの冬鳥を観察しました。



当日の参加者



宣化陵

皆さんしっかり鳥の目になって、自分で見つける人も多く案内者としては嬉しいことでした。そんな中「カワセミ」はやっぱり人気がありますね。

そして、何箇所かで「イソヒヨドリ」の雌雄もゆっくり見ることが出来ました。



イソヒヨドリ♂

「マクド」でお茶しながら鳥合わせをしましたら38種、まずまずでした。解散後、駅の路上バス停辺りにイソヒヨドリの♂がいましたが、傍を通る人もイソヒヨドリもお互いを気にしていませんでした。



レクチャー風景

【写真：勝田】

奈良学クイズ



【問1】大和の三名椿のうち、「武士(もののふ)椿」の呼び名の椿が植栽されている寺院名を漢字でお答えください。また、この椿の花は、①~③のいずれでしょうか。番号でお答えください。(画像の再確認はHPで)



①



②



③

【問2】平成22年の発掘調査によって、舌状にのびた丘陵上に版築で築かれた対辺約22mの



八角形墳で、二重のバラス敷きの範囲を含めると32m以上の規模になることが判明、そしてある天皇の真陵であることがほぼ確実となったとされる古墳で、ふりがなに植物名の付いた古墳の名称を漢字でお答えください。

- ◆正解の方に、豪華品(?)を進呈します。
- ◆応募方法は、メール又はFAXでお願いします。

※応募締切は、4月5日です。

やさしい昆虫講座 ③① 最近デビューしました 木村 裕

名前はマダニさんです。最近デビューしたばかりですが、新聞やテレビで「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」の媒介虫として大いに宣伝されています。この虫は昔からいたのですが今までは日陰の身であり存在が知られていませんでした。

この虫は野外では何処にでもいて決して珍しいものではありません。鹿などの野生動物をあてにして生活していますが、野原を走り回る犬も得意さんです。もちろん人間さまにも寄生しますがその確率はかなり低いです。食べ物は脊椎動物の血液のみで代用食はありません。

マスコミではこのダニに噛まれると死亡するかのよう恐怖をあおって？いますが怖がる必要はありません。日本での死亡例は4例あるようですが、皆さんがその被害を受ける確率は0パーセントと言ってよいでしょう。宝くじで1億円当たる確率よりも低いです。怖がって野山に出かけるのを控えるのはナンセンスです。家の中に閉じこもっていても上から飛行機が落ちてくるのは防げないですよ。

このダニの脚は8本で、昆虫ではありません。どちらかと言えばクモの仲間に近いです。それゆえ、成虫も幼虫も同じような形をしており、羽はまったくありません。移動は自分の足と敏捷性が頼りで、野原で草の先にじっと待機していて、そこを動物が通りかかるとさっと飛び移ります。

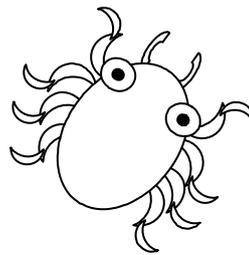


ダニの被害をよく受けるのが犬です。皮膚にのこぎり状の口ばしを差し込んで血を吸います。

犬の皮膚や足に赤褐色のいぼ様物（大きくなれば1 cm位になる）があればこのダニの可能性が大です。よく観察すると脚があるので分かります。しっかりと皮膚に食らいついていますので、指で引っ張ったくらいでは取れません。

また、無理に引っ張ると体がちぎれて、体内に口ばしが残って後日化膿することもあります。最も良いのはタバコの火などを近づけ、それを嫌って口ばしを外して逃げさせるのがよいと言われています。

このダニの仲間にはいろいろな種類が含まれており、大きさ、形、食べ物などは千差万別です。最近問題となっているマダニは英語ではTickと言って他のダニ (Mite) とは区別しています。マダニは体が大きいですが、Miteと呼ばれるダニ類は体は小さくて肉眼で見えないものが多いです。



マダニ



イエダニ

名前は聞いたことがあるが実物にお目にかかったことがないのがイエダニでしょう。その名のとおりに家屋内で発生し、人の皮膚に取り付いて血を吸うので、その被害部は赤くなってかゆくなります。原因はネズミです。本来はネズミを住処とするダニですが、何らかの原因で今までいたネズミがいなくなると、住処と食物を失ったダニがやってきて住人に物乞いすることになります。このダニは小さくて肉眼では見つけることはできないでしょう。

家庭内で発生するダニにはコナダニがいます。名前の通り粉の様な白いダニです。貯蔵している穀物(小麦粉、ラーメン、カツオブシ、だしジャコ、チーズなど)に発生します。高温多湿を好むため梅雨どきに発生することが多く、白い粉がうごめいていればこのダニとと思ってください。

楽しくてまた悲しくて桜どき

八木順一

今年の開花は例年より早いとか。

桜は日本人の心を揺さぶる。それぞれの人生に
哀楽の思いが投影する。

重ね着の一枚を脱ぐ弥生かな

八木順一

春を迎えて。寒暖の落差が大きい。

汗ばむ日には着衣が重い。身を軽くして今日も
草刈に精を出すか。

上堂の炎ほむらが走る春の舞

鈴木木一

修二会の大松明。今年も大勢の参加者が鑑賞されたと言う。

童子の振る火を被り、無事息災は間違いなし。

「春の舞」の収まりが良い。

観世音閣を焦がして春を呼ぶ

大澤教男

これもお水取りの一景。了われば春が来ると言う

本尊 観世音菩薩のほほ笑みが見てとれる。

中七の措辞が良い。

自然俳句

監修 川井秀夫

草萌えの何と手強き根張りかな 古川祐司

雑草達よ。君の生命力は強靱な根にあるのだろう。

これからの草引きが大変だ。

人間様も足腰を鍛えなくちゃ。

風に連れ天意のままに梅香る 川井秀夫

わが里山の梅畑にも、三年越しの丹精の花が咲く。

芳香を肴に、美酒を汲みますか。

藍天に佐保姫のゐる白い雲 川井秀夫

佐保姫は春の女神。春の季語。

姫は平城山がふるさと。我々の活動を祝福にお出まし。

朽木燃すおととととと春一番 川井秀夫

第五地区の整理木。焼却に手を焼く。

火勢に驚き、目が離せない。つむじ風が大敵。



癒しの
散歩道

春の音を奏でる



谷川 萬太郎

春は そっと静かにやって来る
めぐる季節にあなたが恋をしたら
さあ羽ばたく小鳥の背に乗って
穏やかな日和に誘われた春風よ

あなたの知らない小さな町の片隅に
故郷懐かしく胸はときめき心は躍る
いつの日か来た道を探し思い出そう
いつの日か来た丘をさあ探しに行こう



あゝ地上に降り注ぐ春の光は燦燦と
春色の海の向こうに咲く薄紫の花よ
胸に宿りし季節の明かりが灯るころ
新たな夢追いかけて花は咲き乱れ

白雲の狭間から眩しく瞬く春の調べ
仄かな香りは人の心に優しく微笑む
緑青く風にゆれる陽炎が霞に消えた
山河を彩りて春の季節に酔いしれる

なつやま
茶 論

「化学兵器」

竹本 雅昭

切株大：寒い寒い、日も当たらんし霜焼だらけ あゝ辛いなあ。

切株中：我々だけがカシノナガキクイムシに寄生されて余生幾許も無いわ。誰かこの怨みをはらしてくれんかな。

切株小：全くだ、たまにはウサギでも当たってコロリとろげてくれたら…。

切株大：こんな時によろそんなこと考えられるなあ。オッ！何だ？ 紙パックをもって人々がきたぞ。ジュースかな、あんなもらっても嬉しくないけど。

仕事人：お望み通り俺様が怨みを晴らしてやるぞ。われこそは林業燻蒸剤ヤシマと申す。

切株中：えっ、ほんまでっか。それはうれしいね、けど頼み料ありませんで。

仕事人：なーにいいってことよ。あんたらの仲間にはこれからも県民のために働いてもらうんや、心配いらんよ。必殺技見せたるで、苦しいけど我慢せいよ。ほないくぞー。

切株達：ウワーえらい臭いや、分厚いビニールでカバーされて息もでけへん。ウम्मム…。



平群春秋

隠れ古社寺 ひとり旅 ㊦

石床神社・消渴神社・平群神社

歴史文化クラブ

川井 秀夫

再び平群の郷を訪ねる。生駒線竜田川駅下車。東に矢田丘陵が迫り、西には指呼の距離に信貴山が佇む。平群谷一帯には古墳が100基を越えると言う。正に武烈朝の時代、平群一族の権勢の足跡が偲ばれる。駅から10分、平群最大の鳥土塚古墳に立ち寄る。平群族長の墓として石室は石舞台に匹敵するとか。丘陵に立てば眺望が素晴らしい。

鄙びた道を20分。赤い鳥居が視野に入る。越木塚と呼ばれ、十三峠から大坂に通じる間道として十三街道、古くは玉祖路(タマノオヤジ)と呼称したらしい。



また、この地は花崗岩の岩山で、石床神社には本殿もなく、高さ九米に及ぶ巨岩が御神体として座る。古代、磐座・陰石信仰として貴重な神社である。

子孫繁栄の象徴として女陰の形が自然石とは思えない奇形を呈する。

少し坂道を入り込むと、(新)石床神社の境内に入る。立派な社務所があるが、放置されたまま施錠され、中は廃墟の様に見える。先述の(旧)石床神社から御祭神の剣刃石床別命(ケンジンイワトコワケ)を大正13年に移したとある。



鬱蒼とした境内にポツンと居ると、「神隠し」に会う様な不気味さを覚える。

石床の分霊を祀る消渴(ショウカチ)神社を拝む。消渴とは喉が乾き尿が出ない病気。古くは淋病を指す。と広辞苑にある。



江戸期には女性の下の病気にご利益があるとして、芸妓や遊女が列をなして集り、神社の前に茶店が出るほどの賑わいであったと言う。

また、室町期に「信海」と言う旅の僧が修行中に病気になり、川岸の土でお団子を作り、一心に祈ると観音様が現れ病気を治したとか。

また、観音様が神社でお祭りをしるとのご託宣があり、土の団子を12個作ってお願いすると下の病気に効果があり信仰が高まったと言う。

また、観音様が神社でお祭りをしるとのご託宣があり、土の団子を12個作ってお願いすると下の病気に効果があり信仰が高まったと言う。



長閑な道を帰路につく。西宮古墳、戦国期筒井順慶の軍師 島 左近の居城、西宮城を通り、平群神社を参拝する。現在、西宮大字の氏神として立派な佇まいを見せている。祭神は式内社の登録では大山祇神(オオヤマツミ)となっているが、土地柄から平群氏の祖神を祀った可能性が強い。

今年11月には例会行事として再訪したいと考えています。どのコースを設定するか迷いますがご期待ください。

Gallery ならやま

①～⑦ バンタナ止め、カスタネット
干支のペンダント (大澤教男)



① 藤蔓・巳



⑤ バンタナ止め



② シロダケ・巳



④ マダケ・巳



⑥ 松ポックリ



③ アカメガシワ・巳

⑧～⑨ 藤蔓の椅子 (鈴木末一)



⑨ 椅子とシジュウカラ

第五地区で杉に絡みついていた藤蔓も、杉と運命を共にしましたが、鈴木氏のおかげで第二の人生(蔓生?)をこんな素敵で送ることになりました。目出度し目出度し。シジュウカラも喜んでます。



⑧ 椅子とシクラメン

可愛い椅子が花の鉢を乗せてご満悦



⑦ 竹のカスタネット



福田 美伸

秋蕎麦は12月が旬である。8月から9月にかけて種が蒔かれ、約60日で実を付ける生育期間の短い植物である。約1ヶ月天日干しされ完全に黒い実となる。製粉されるのが11月末頃からになるので、12月が旬となるわけである。

蕎麦は酸性の痩せた土地でも育つが、焼き畑による作付けが一番適している。しかし、土壌、水、日照時間、日中と朝晩の温度差が大きいことが重要であり、特に、高冷地で水はけのよい、東向き丘陵地で収穫された蕎麦が美味しいと言われる。また、蕎麦は高冷地を好むが、霜には極めて弱い作物である。全ての条件が適うことにより、秋蕎麦独特の香りと味が生まれるのであろう。

美味しい蕎麦を作ろうと畑で肥料をやったり、一生懸命草取りをして作っても蕎麦の実には確かに大きくなるが、条件に合わないと蕎麦本来の香りと味に劣る。日本には有名な蕎麦の産地は沢山あるが、特に栃木県・野洲地方、長野県・更級地方、兵庫県・出石地方、徳島県・祖谷地方等が挙げられる。生産量では北海道が最も多い。

蕎麦はタデ科の一年草植物で東アジアが原産である。各国それぞれ「ソバ」という言葉はあるが、ほとんどは「跳ね上がる草の粉」または「粘りけのない粉」という意味を語源としている。英語：Buckwheat 独語：Buchweizen 仏語：Sarrasin 中国語：蕎麦 ネパール語：パパール 朝語：メミル 等

蕎麦の種類は少なくとも数種に分類しており、栽培種として

普通蕎麦：単に蕎麦と称するもので、日本、中国、ロシア、その他のアジア諸国。東部インド、ヨーロッパ諸国、アメリカ、カナダ、ブラジル、アフリカ諸国でも盛んに栽培されている。なおフランスではクッキー用に使われている。

ダツタン蕎麦：別名は苦蕎麦と呼ばれ、ロシア、中国、韓国、朝鮮、ヒマラヤ、モンゴル、インド、東欧諸国、カナダ、アメリカ北部等で、食用や飼料として作られているが、日本ではあまり知られていない。

現在蕎麦は中国、カナダ、アメリカの3カ国から年間約9万トン輸入されており、全体の80%以上を輸入に頼っている。輸入品は国内産地粉(2万トン生産)と比較すれば、実際には香りと味の面で雲泥の差があり、極端に言えばただの茶色い粉である。輸入価格は、生産国、地域及び粒の大きさによって格段の差があり、中国産でトン当たり3万円から7万円ぐらいである。国内産地粉の価格は@¥1,000/kg以上である。

一般のそば屋では、ほとんどを輸入品に頼っており、悲しいかな私達はその味に飼慣らされてしまった感がある。また、おいしいそば屋として通っている店で、だんだんと味が落ちることがある。理由として有名になれば客足が増え、地粉だけでは賄い切れなくなり、つなぎ粉を増やしたり、輸入品を混ぜたり、また機械に頼ったりするためである。稀に輸入品を使ったそば屋でも、ひきたて、打ち立て、ゆでたてで食べさせてくれ、結構美味しい店もある。三たてそばと呼ばれ大変重要なことである。美味しい蕎麦を食べるには、粉の占める要因が4割、打ち方2割、茹で方2割、つゆ1割であると考えている。また、蕎麦は高温を嫌うので保存、管理が重要とされる。特に輸入粉がまずい理由として、収穫後の乾燥方法と長時間かけ海を渡って来るときに湿気を帯びることも挙げられる。

歴史文化クラブ 25年度活動計画

統一テーマ 「歴史の渚を歩く」

月次の計画と概要

- 4月 例会と共催 「桜の大和郡山城と金魚文化を視察する」 (主担当 川井・寺田)
柳沢15万石の城下町の繁栄を今に伝える郡山城跡の桜をゆっくり愛で、300年前から始まる金魚養殖文化を探索します。郡山城主柳澤家の菩提寺「永慶寺」なども訪ねます。
- 5月 研修会 「世界遺産の法隆寺を訪ねて聖徳太子の事蹟を検証する」 (主担当 富井・川井)
世界遺産の法隆寺の西院と東院を見学、斑鳩3塔の法輪寺・法起寺を散策し、聖徳太子の事蹟を検証します。
- 6月 研修会 「謎多き継体天皇と今城塚古墳を訪う」  (主担当 岩本・杉本・古川)
天皇家断絶の危機に即位した応神天皇5代の孫とされる継体天皇。河内国樟葉で即位するが、大和の磐余玉穂宮に入ったのは20年後、その後4年で崩御する。御陵は宮内庁は茨木市の太田茶臼山古墳に比定しているが、高槻市今城塚古墳を真の継体天皇陵とするのが定説。今城塚古代歴史館で現地の見学と学習を行います。
- 7月 研修会 「佐紀盾列古墳群と松林苑・超昇寺跡をめぐる」 (主担当 岩本・鈴木、古川)
大和古墳群の次期の大型古墳群のある佐紀地区の古墳について、現地学習をします。併せて、同じ場所に営まれた平城京宮庭庭園の松林苑、超昇寺跡など佐紀地区の史跡について勉強します。
- 9月 研修会 特別企画「壬申の乱の跡をめぐる」  (主担当 杉本・弓場・森・古川)
古代史最大の争乱「壬申の乱」大海人皇子と鸕野皇女の辿った道を訪ねて、吉野宮、伊賀、鈴鹿、美濃の不破関、近江路へとゆかりの地を辿りながら、追体験と学習を試みます。
- 10月 研修会 「阿騎野に神武天皇東征の伝承を訪う」  (主担当 川井・弓場・古川)
神武天皇東征伝説のクライマックスの地、宇陀市周辺に残されている神話と伝承の数々を訪ねて、記紀の世界に想いを広げます。
- 11月 例会と共催 「平群の郷にのこる伝承と遺跡を訪う」 (主担当 川井・富井)
奈良県の西の端に位置する生駒郡平群町は、古代豪族「平群氏」の本拠地として知られますが、有名な長屋王墓など古墳が100基以上築造されたといわれる古代遺跡の宝庫の地です。
- 12月 研修会 「奈良市周辺の歴史散策と座学」 (担当 世話人全員)
- 3月 例会と共催 「「巨勢道」と「つらつら椿の里」を訪う」 (主担当 川井・古川・森)
万葉集でも詠われる「巨勢(こせ)古道」は、飛鳥からも近く、吉野や紀伊への道として古来、幹線として人々の往来が盛んだった所です。「阿吽寺」は椿の名所として知られます。

(註) 8月、1月、2月 は休みとする。

 : マイクロバス使用

ならやま景観整備

♪ 活動予定日 ♪

4月	4 (木)	11 (木)	18 (木)
	25 (木)		
5月	2 (木)	9 (木)	16 (木)
	23 (木) 30 (木)		

◆場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
 [ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]

◆集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス

① J R平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分

② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場

8:23発、高の原行き(平日)

③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場

8:33発 J R奈良駅行き(平日)

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」

で下車 徒歩7分

◆携行品など：弁当、飲み物、
 軍手(作業用具は現地で用意)



環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



◆連絡先：木村 裕



4月4日

- <里山Gr>・ホダ木の菌打ち・仮伏せ
 ・薪小屋の製作・薪作り
 ・里山林維持管理作業
- <農園Gr>・茄子畑と里芋畑の畝作り、水路整備
 ・唐辛子関係の植え付け準備
 ・豌豆の蔓誘引、玉葱畑除草
 ・マリーゴールドの播種
- <景観Gr>・第5地区、整備、片付け
 ・機械整備、調整
 ・キンセンカ・矢車草・紫花菜施肥
 ・草取り、ピオトープ園
 ・東池下水路整備、ならやま池水生生物調査

4月11日

- <里山Gr>・ホダ木の菌打ち・仮伏せ
 ・薪小屋の製作・薪作り
 ・里山林維持管理作業
- <農園Gr>・里芋植え付け、空心菜・ワサビ菜などの播種
- <景観Gr>・第5地区、整備、片付け
 ・秋明菊、花ジンジャー移植
 ・夏花種まき、草取り
 ・東池下水路整備

4月18日

- <里山Gr>・薪小屋の製作・薪作り
 ・里山林維持管理作業
- <農園Gr>・茄子植え付け準備、野菜畑除草など
- <景観Gr>・第5地区、整備、片付け
 ・日陰植物園、ジャーマンアイリス草取
 ・夏花壇草取り、
 ・ならやま池水生生物調査

4月25日

- <里山Gr>・薪作り・里山林維持管理作業
- <農園Gr>・茄子、ピーマン・唐辛子定植、甘藷畑準備
- <景観Gr>・第5地区、整備、片付け
 ・機械整備、調整
 ・コールラビ移植、山野草園施肥
 ・池の整備

情報BOX

HPの紹介

HPをもっと楽しんで頂けるよう色々な試みをしてはいますが、「見方」がよく分からない方もおられるかも知れないので、解説をしたいと思います。



1. インターネット・エクスプローラなどを開き、ヤフーやグーグルの検索窓に「奈良・人と自然の会」と入れたら、
<http://www.naranature.com/> が直ぐに見つかります。

2. 更新（月3回程度）

- * NEW（ならやまの風景）
- * NEW（2ページ目：ならやまの鳥や昆虫、花など）

3. 更新（毎月）

- * 会報 * 今月の昆虫 * やさしい昆虫講座
 - * 活動計画（当月、3ヶ月スケジュール）
- なお、会報では2001年の創刊号からの全てが閲覧出来ます。
- * 活動の記録：例会や各種行事のレポートと写真を掲載しています。

4. その他

- * 資料（ならやまの自然誌シリーズ、里山サミット発表資料）
- * ならやまの花



編集チームでは、HPを会の内部資料としての位置づけと、対外的な会のPRとしての役割を考え、皆様のご希望などを聞き改良を重ねて参りますので、これからもよろしくお願ひします。

【第12回通常総会開催予告】

第12回通常総会（平成25年度）を下記の日程で開催します。議案は、平成24年度活動実績と収支報告および平成25年度活動計画（案）と予算（案）等についてです。

総会終了後、「ならやま景観整備事業の活動報告」として、「ガシノナガキクイムシのトラップ調査」、「タナゴ池の1年」の2件について発表をお願いしております。

皆様のご出席をお待ちしております。

日時：5月11日（土）13：30～16：00

会場：奈良市中部公民館

（奈良市上三条町23-4）

問合せ：事務局：塩本



△
◁ トラップ調査



△ タナゴ池



行事案内



4月例会ご案内

※歴・文クラブ共催



桜の郡山城と金魚田を訪ねる

桜の名所 郡山城は京・大坂の要衝として、歴代太守が任に当たり、廃藩置県の明治期まで雄藩として存続し、とりわけ豊臣秀長、徳川期には柳沢吉保が善政に努め、天守閣は無いものの、往時を偲ぶ天守台が残り、奈良の桜の名所として威容を誇る。

途上、柳沢氏の菩提寺永慶寺を尋ね、住職からお城の盛衰を伺う予定です。

今年の開花予想は例年より早く、当日は落花の風情を楽しむ事になりそうです。

午後は秀長の大納言塚を観て、全国一の生産を誇る金魚田の飼育現場を鑑賞致します。一尾3万数千円の優雅な姿をご覧いただきます。

日がな一日、お花見・歴史・文化と楽しんで下さい。当日、永慶寺住職から提供の史料、金魚の展示資料を配布致します。多数のご参加をお待ちします。

【日時・コース】

◆集合 4月9日(火) AM10

近鉄 橿原線 郡山駅東口

郡山駅⇒永慶寺⇒柳沢神社⇒さかさ地蔵⇒柳沢文庫⇒大手門広場(昼食)城内自由散策(1:00まで)
郡山城⇒大納言塚⇒金魚資料館⇒郡山駅

- ◆解散 近鉄郡山駅 3:30分頃
- ◆花見弁当持参・軽装・飲み物・雨具など

◆交通案内
大阪・奈良より 近鉄西大寺より
橿原神宮前行き10分(急行停車駅)
八木より 近鉄八木より
京都又は西大寺行 20分

◆担当 川井 秀夫・寺田 孝・井戸 八穂子
(連絡先 川井)

5月例会 予告

新緑の宇治市植物公園を訪ねよう!

宇治市植物公園は宇治市の南西部、山城総合運動公園に隣接する地域にあります。正面には日本一を誇るタペストリー立体花壇(現在はカワセミ)があり、園内は春・夏・秋のゾーンに分かれ、四季折々の自然が楽しめます。また、温室は年間を通じて熱帯・亜熱帯植物の花が咲き誇っています。

5月例会はこの植物園を職員の方々にガイドしていただき、春の自然をじっくり観察したいと思います。きっといろいろな不思議発見があるでしょう。

また、観察会終了後は希望者で宇治平等院近辺の散策もしたいと思います。
担当は自然教室チームです。



実施要領

- 1, 日時: 5月14日(火) 10時~15時
- 2, 集合場所と時間: 宇治市植物公園入口10時
- 3, アクセス: 京阪宇治駅・JR宇治駅および近鉄大久保駅から京阪宇治バスが出ています。詳細は5月号でお知らせします。
- 4, 担当: 倉田、平岡

5月歴史文化クラブ研修会予告

1. 日時 5月24日(金)
2. 場所 斑鳩の里 法隆寺・斑鳩三寺ほか
3. 集合 JR大和路線 法隆寺駅 AM9:30分
4. コース 会報誌5月号にてご案内します
5. 準備 弁当持参 軽装 飲み物ほか

世話人 寺田 孝
富井 忠雄
川井 秀夫



平成25年・3月度幹事会報告

◆日時：平成25年3月5日(火)
17:15~20:30

◆場所：奈良県女性センター

◆出席者：幹事17名 顧問2名

◆案件：

- ①会員動向、会計報告 (会員は123名)
- ②例会、自然教室、ならやま等の報告
- ③H25年度活動計画と予算案について
- ④イベント「しいたげづくり」の実施要領
- ⑤新人歓迎会の実施について
- ⑥奈良県環境県民フォーラムからの提案
- ⑦新しい行事への参加について
- ⑧3~5月の行事予定の確認

ペン画によせて

境 寛

秋篠寺

秋篠寺の草創は、光仁天皇の勅願とか秋篠氏の氏寺であったなどと言われています。

秋篠寺では、多くの方が伎芸天の美しさに憧れて拝観に訪れます。私もペン画にしたい仏像のひとつです。

伎芸天も素晴らしいのですが、雨の庭も、コケが美しいので、ぜひ雨の秋篠寺を訪れてみてください。

お知らせ&お願い

- ◆ 小田久美子さん執筆の「鳥シリーズ」は、4月号でもって休稿となります。長期間に渡るご寄稿有り難うございました。
- ◆ 「蕎麦よもやま咄」を連載していきます。蕎麦打ち歴25年・超ベテランの執筆です。
- ◆ 新企画として「譲ります」と「ビュースポット」をとのご要望が寄せられています。5月号からスタートさせていきたいと思っておりますので、会員の皆様方から、沢山の情報をお寄せいただきますようお願いいたします。

申し合わせ 事項

ならやま環境整備活動や
野外行事は、前日午後7時
前のNHK TV天気予報で
降水確率が午前60%以上の
場合は中止になります!!



◆ 今年は、春の訪れが例年になく早く、既に桜が咲き誇っています。花の咲いていない「桜祭り」から「桜花爛漫」の祭りにしたいと、昨年より日程を一週間遅くした団体が、多かったようです。ところが史上2番目に早い開花・・・。自然界のセンサーは、とてもとても凶り知れないものです。

◆ 新入会員の皆さん、一日も早く「居場所」を見つけて、「明るく」「楽しく」「元気に」「無理をせず」をモットーに、『楽しく心豊かに活動できる場』を創り上げていこうではありませんか。期待しています。

◆ 藤蔓に第二の『藤生を!』。クラフトにチャレンジ中。「次は僕の出番だ。」と蔓が呼びかけてくるような気がします。捨てる部分を出来る限り少なくと心がけつつ・・・。奥深いものを感じています。(里山人)

奈良・人と自然の会

会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>

5月号の印刷・発送予定について

日時：平成25年4月26日(金) am 9:00~

会報誌[ネイチャーなら]

編集チーム・代表 鈴木末一